

2) 収益性 (表6 参照)

損益状況からみた収益性を黒字の病院と赤字の病院で比較すると、黒字の病院の方が人件費率 6.1%、経費率 3.2%低くなっており、黒字の病院は、効率的な医療の提供や、経費の合理化・適正化に努めていると考えられる。

なお、人件費率については10年度調査に比べ黒字の病院で 0.2%、赤字の病院で0.3%増加している。

表6：損益状況からみた収益性

区 分	全体	黒字	赤字	20%値	中央値	80%値
人件費率 (%)	49.2	47.9	54.0	44.2	51.0	57.7
材料費率 (%)	24.2	24.2	24.2	14.9	21.6	28.9
経費率 (%)	15.3	14.6	17.8	11.9	15.3	20.3
委託費率 (%)	3.5	3.5	3.6	1.0	2.5	5.6
減価償却費率 (%)	4.1	4.0	4.3	2.0	3.5	5.7
医業収益対医業利益率 (%)	3.7	5.7	-3.9			
経常収益対経常利益率 (%)	3.8	5.4	-2.5			
総収益対総利益率 (%)	3.4	5.0	-2.7			
経常収益対支払利息率 (%)	1.3	1.3	1.5			

3) 生産性 (表7 参照)

従事者1人当たりの年間医業収益は、黒字の病院 12,107千円、赤字の病院 10,498千円で、黒字の病院は赤字の病院の 1.15倍 (10年度調査 1.16倍) となっている。

労働生産性は、従事者1人当たり年間どれだけの付加価値を生み出したかを示すものであるが、10年度調査と比べ黒字の病院で 48千円、赤字の病院では 51千円増加している。

表7：損益状況からみた生産性

区 分	全 体	黒 字	赤 字
従事者1人当たりの年間給与 (千円)	5,768	5,797	5,672
常勤医師1人当たりの年間給与 (千円)	14,200	14,361	13,653
常勤看護婦1人当たりの年間給与 (千円)	4,740	4,757	4,683
従事者1人当たりの年間医業収益 (千円)	11,733	12,107	10,498
労働生産性 (千円)	6,206	6,493	5,261
労働分配率 (%)	92.9	89.3	107.8

4 損益状況からみた療養型（老人）病院の経営状況（表2・表8・表9参照）

療養型（老人）病院の対象施設数は、202施設で、赤字の病院数は41施設で、全体の20.3%となっており、10年度調査（16.7%）と比べ赤字の病院の割合が3.6%増加している。

ただし、規模と地域により相違が見られる。

表8：損益状況からみた基礎数値

区 分	全 体	黒 字	赤 字
集計対象施設数 (病院)	202	161	41
病床数 (床)	122.5	130.4	91.3
1日平均入院患者数 (人)	115.8	125.2	78.8
1日平均外来患者数 (人)	62.8	62.2	65.0

表9：損益状況の推移

区 分		10 年			11 年		
		施設数	黒字の病院		施設数	黒字の病院	
			施設数	比 率		施設数	比 率
総 数		269	224	83.3	202	161	79.7
病 床 規 模	99床以下	123	98	79.7	104	79	76.0
	100~199床	96	82	85.4	74	60	81.1
	200~299床	31	27	87.1	10	8	80.0
	300床以上	19	17	89.5	14	14	100.0
都 道 府 県 ブ ロ ッ ク	北 海 道	14	14	100.0	9	8	88.9
	東 北 道	18	18	100.0	13	10	76.9
	関 東 圏	40	24	60.0	32	20	62.5
	中 部 圏	40	37	92.5	30	27	90.0
	近 畿 圏	27	18	66.7	21	15	71.4
	中 国 圏	21	17	81.0	20	17	85.0
	四 国 九 州	49	42	85.7	42	31	73.8
病 院 所 在 地 の 人 口	政令指定都市	40	30	75.0	31	24	77.4
	人口20万人以上	81	69	85.2	59	47	79.7
	人口5万人以上	49	39	79.6	42	32	76.2
	そ の 他	99	86	86.7	70	58	82.9

1) 機能性 (表10参照)

病床利用率では、黒字の病院 96.1%、赤字の病院 86.2%と 9.9%の差があり、10年度調査と比べると、全体としては 95.8%から 94.6%と 1.2%減少している。

平均在院日数を10年度調査と比べると、全体としては 4.7日長くなっており、黒字の病院で 6.6日、赤字の病院で 4.3日長くなっている。

患者 100人当たり従事者数を10年度調査と比べると、全体としては、68.6人から68.5人と 0.1人減少しており、黒字の病院で 0.5人減少しているのに対し、赤字の病院では 1.9人増加している。

患者 1人 1日当たり入院収益を10年度調査と比べると、全体としては、14,856円から 15,211円と 355円増加している。黒字の病院では 422円増加しているのに対し、赤字の病院では 103円減少している。

表10：損益状況からみた機能性  
(平成11年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	94.6	96.1	86.2
外来／入院比 (倍)	0.54	0.50	0.83
平均在院日数 (日)	247.9	267.9	169.3
患者100人当たり従事者数 (人)	68.5	68.0	70.8
患者1人1日当たり入院収益 (円)	15,211	15,201	15,278
患者1人1日当たり外来収益 (円)	6,192	6,114	6,486

参考：(平成10年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	95.8	96.1	93.9
外来／入院比 (倍)	0.49	0.46	0.72
平均在院日数 (日)	243.2	261.3	165.0
患者100人当たり従事者数 (人)	68.6	68.5	68.9
患者1人1日当たり入院収益 (円)	14,856	14,779	15,381
患者1人1日当たり外来収益 (円)	6,217	6,335	5,701

## 2) 収益性 (表11参照)

損益状況からみた収益性を黒字の病院と赤字の病院で比較すると、黒字の病院の方が人件費率 6.2%、材料費率 3.5%、経費率 4.1%低くなっており、黒字の病院は、効率的な医療の提供や、経費の合理化・適正化に努めていると考えられる。

なお、人件費率については10年度調査と比べ黒字の病院で 0.2%、赤字の病院で 1.2%減少している。

表11：損益状況からみた収益性

区 分	全体	黒字	赤字	20%値	中央値	80%値
人件費率 (%)	55.7	54.7	60.9	49.6	56.1	62.3
材料費率 (%)	12.0	11.5	15.0	8.2	11.5	17.1
経費率 (%)	17.1	16.5	20.6	12.2	16.3	20.8
委託費率 (%)	4.3	4.3	4.1	0.7	2.5	6.9
減価償却費率 (%)	4.0	3.8	5.1	1.7	3.7	6.0
医業収益対医業利益率 (%)	7.0	9.2	-5.8			
経常収益対経常利益率 (%)	7.1	9.1	-3.6			
総収益対総利益率 (%)	7.1	9.2	-4.0			
経常収益対支払利息率 (%)	1.7	1.7	1.8			

## 3) 生産性 (表12参照)

従事者1人当たりの年間医業収益は、10年度調査と比較すると、黒字の病院で 218千円増加しているのに対し、赤字の病院では 175千円減少している。

労働生産性は、10年度調査と比べ、黒字の病院で 161千円増加しているのに対し、赤字の病院では 195千円減少している。

表12：損益状況からみた生産性

区 分	全 体	黒 字	赤 字
従事者1人当たりの年間給与 (千円)	4,850	4,784	5,214
常勤医師1人当たりの年間給与 (千円)	13,527	13,669	12,906
常勤看護婦1人当たりの年間給与 (千円)	5,007	4,986	5,120
従事者1人当たりの年間医業収益 (千円)	8,716	8,745	8,557
労働生産性 (千円)	5,456	5,591	4,718
労働分配率 (%)	88.9	85.6	110.5

5 損益状況からみた精神病院の経営状況（表2・表13・表14参照）

精神病院の対象施設数は、289施設で、赤字の病院数は58施設で全体の20.1%となっており、10年度調査（19.4%）と比べ赤字病院の割合が0.7%増加している。

ただし、規模と地域により相違が見られる

表13：損益状況からみた基礎数値

区 分	全 体	黒 字	赤 字
集計対象施設数 (病院)	289	231	58
病床数 (床)	264.3	264.1	265.1
1日平均入院患者数 (人)	250.9	251.2	249.8
1日平均外来患者数 (人)	54.1	55.0	50.5

表14：損益状況の推移

区 分		10 年			11 年		
		施設数	黒字の病院		施設数	黒字の病院	
			施設数	比 率		施設数	比 率
総 数		371	299	80.6	289	231	79.9
病 床 規 模	99床以下	-	-	-	-	-	-
	100~199床	120	91	75.8	98	76	77.6
	200~299床	131	105	80.2	106	91	85.8
	300床以上	120	103	85.8	85	64	75.3
都 道 府 県 ブ ロ ッ ク	北 海 道	20	15	75.0	17	16	94.1
	東 北 道	39	33	84.6	29	20	69.0
	関 東 道	64	48	75.0	45	34	75.6
	中 部 道	66	57	86.4	48	42	87.5
	近 畿 道	37	26	70.3	31	22	71.0
	中 国 道	29	23	79.3	32	21	65.6
	四 国 道	32	26	81.3	29	23	79.3
	九 州 道	84	71	84.5	58	53	91.4
	病 院 所 在 地 の 人 口	政令指定都市	42	35	83.3	31	26
人口20万人以上		109	89	81.7	94	72	76.6
人口5万人以上		112	91	81.3	79	64	81.0
その他		108	84	77.8	85	69	81.2

1) 機能性 (表15参照)

病床利用率は黒字の病院 95.1%、赤字の病院 94.2%と、ともに高い利用率を示している。10年度調査と比べると、全体としては、94.7%から94.9%と0.2%増加している。

平均在院日数は、10年度調査と比べると、全体としては 5.4日短くなっており、黒字の病院では 7.3日、赤字の病院では 1.2日短くなっている。

患者 100人当たり従事者数を10年度調査と比べると、全体としては、50.4人から51.2人と 0.8人増加しており、赤字の病院で 4.7人増加している。

患者 1人1日当たり入院収益を10年度調査と比べると、全体としては、11,661円から11,807円と 146円増加している。黒字の病院では66円、赤字の病院では 636円増加している。

表15：損益状況からみた機能性  
(平成11年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	94.9	95.1	94.2
外来/入院比 (倍)	0.22	0.22	0.20
平均在院日数 (日)	416.5	409.4	447.7
患者100人当たり従事者数 (人)	51.2	50.9	52.4
患者1人1日当たり入院収益 (円)	11,807	11,935	11,293
患者1人1日当たり外来収益 (円)	8,497	8,611	8,005

参考：(平成10年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	94.7	94.8	94.0
外来/入院比 (倍)	0.21	0.21	0.20
平均在院日数 (日)	421.9	416.7	448.9
患者100人当たり従事者数 (人)	50.4	50.9	47.7
患者1人1日当たり入院収益 (円)	11,661	11,869	10,657
患者1人1日当たり外来収益 (円)	7,841	7,725	8,427

## 2) 収益性 (表16参照)

損益状況からみた収益性を黒字の病院と赤字の病院で比較すると、黒字の病院の方が人件費率 8.3%、材料費率 1.4%、経費率 1.6%低くなっており、黒字の病院は、効率的な医療の提供や、経費の合理化・適正化に努めていると考えられる。

なお、人件費率については、10年度調査と比べ、黒字の病院で 0.3%、赤字の病院で 2.7%増加している。

表16：損益状況からみた収益性

区 分	全体	黒字	赤字	20%値	中央値	80%値
人件費率 (%)	59.9	58.4	66.7	53.9	60.5	66.2
材料費率 (%)	13.4	13.1	14.5	10.1	13.1	16.4
経費率 (%)	14.1	13.8	15.4	10.6	13.5	17.7
委託費率 (%)	2.8	2.9	2.0	0.6	1.6	3.3
減価償却費率 (%)	4.5	4.3	5.6	1.9	3.8	6.6
医業収益対医業利益率 (%)	5.3	7.6	-4.3			
経常収益対経常利益率 (%)	6.3	8.2	-2.0			
総収益対総利益率 (%)	6.0	7.9	-1.8			
経常収益対支払利息率 (%)	1.2	1.2	1.5			

## 3) 生産性 (表17参照)

従事者1人当たりの年間医業収益は、黒字の病院 9,267千円、赤字の病院 8,406千円で、黒字の病院は赤字の病院の1.10倍 (10年度調査1.01倍) となっている。

労働生産性は、10年度調査と比べ黒字の病院で 227千円増加しているのに対し、赤字の病院では 169千円減少している。

表17：損益状況からみた生産性

区 分	全体	黒 字	赤 字
従事者1人当たりの年間給与 (千円)	5,449	5,409	5,608
常勤医師1人当たりの年間給与 (千円)	14,990	15,116	14,463
常勤看護婦1人当たりの年間給与 (千円)	4,845	4,761	5,183
従事者1人当たりの年間医業収益 (千円)	9,092	9,267	8,406
労働生産性 (千円)	5,936	6,112	5,244
労働分配率 (%)	91.8	88.5	106.9

6 財政状態からみた病院の経営状況

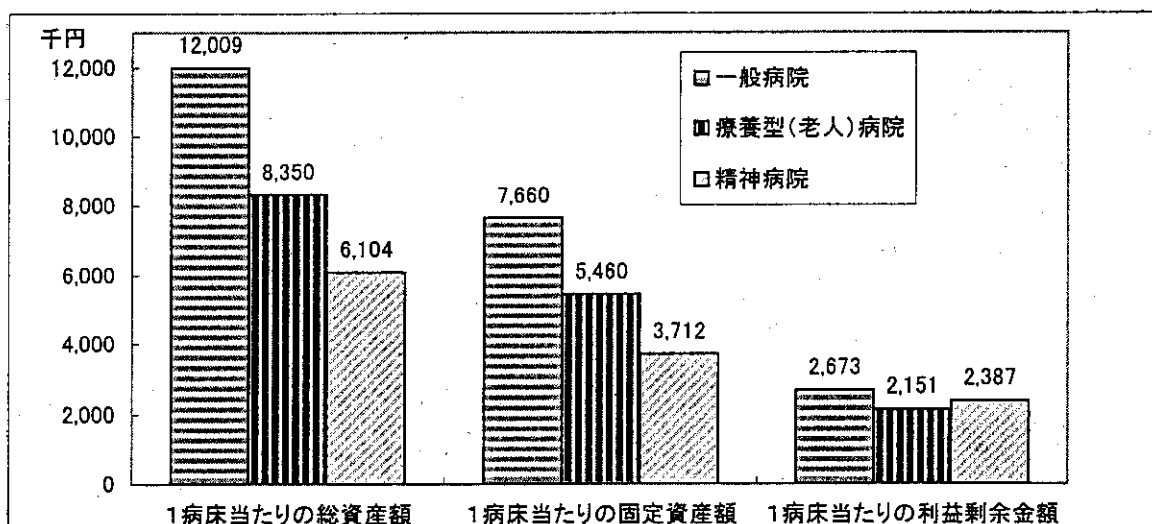
1) 財政状態からみた病院の経営状況-1 (表18参照)

1 病床当たりの総資産額、固定資産額は、一般病院が高い数値を示している。また10年度調査と比べ一般病院、療養型(老人)病院、精神病院とも増加している。

1 病床当たりの利益剰余金は、診療活動から生み出された内部留保が1病床当たりいくらの利益があるかをみるものであり、療養型(老人)病院が、他の種別の病院と比べて低い。

表18：財政状態からみた病院の経営状況-1

区 分	一般病院	療養型(老人)病院	精神病院
1 病床当たりの総資産額 (千円)	12,009	8,350	6,104
1 病床当たりの固定資産額 (千円)	7,660	5,460	3,712
1 病床当たりの利益剰余金額 (千円)	2,673	2,151	2,387





2) 財政状態からみた病院の経営状況－2 (表19参照)

自己資本比率は、経営の安定性を示す指標であり、一般病院 28.9%、療養型(老人)病院 32.7%、精神病院 47.0%といずれの病院も平均では20%を超えている。10年度調査との比較では精神病院では低下しているが、一般病院、療養型(老人)病院では増加している。

精神病院の自己資本比率が相対的に高いのは、精神病院が一般的に他の種別の病院と比較して総資産額が少ないことが影響していることも考えられるので、これをもって、精神病院の優位性を示しているとはみることができない。

固定長期適合率は、自己資本と固定負債を加えた額で固定資産を除いてその割合をみるもので、固定資産取得の安全性を測るものである。今回の集計でも、前年に引き続き全体で70%から80%を示している。

自己資本比率がいずれの病院も平均では20%を超えており、全体としては固定資産への過大な設備投資はないものと考えられる。

流動比率は、1年以内の短期支払い能力を測るものであり、通常この比率は少なくとも100%以上が好ましいとされているが、一般病院 162.0%、療養型(老人)病院 241.0%、精神病院 263.0%となっている。

総資本対経常利益率は診療活動から生み出された利益と、その利益を生み出すための資本の割合を示す経営効率の指標であるが、特に、療養型(老人)病院が 5.8%と高い。

総資本回転率は、医業収益を総資本で除した値で、この比率が高いほど診療活動は活発で総資本の投下率が高いとされ、一般病院は0.96回転、療養型(老人)病院は0.80回転、精神病院は 0.78回転といずれも1回転を下回っている。

表19：財政状態からみた病院の経営状況－2

区 分	一般病院	療養型(老人)病院	精神病院
自己資本比率 (%)	28.9	32.7	47.0
固定長期適合率 (%)	81.8	76.3	71.3
流動比率 (%)	162.0	241.0	263.0
医業収益対借入金比率 (%)	48.5	62.4	45.6
総資本対経常利益率 (%)	3.7	5.8	5.1
総資本回転率 (回)	0.96	0.80	0.78

